

T1A3

22F0

(F85)

新修身教典 小巻二 目次

第一課	きみはちよませ	二	第十六課	がまふうちさと	五十二
第二課	じんむてんのーさま(一)	四	第十七課	おたけのしんせつ	五十二
第三課	じんむてんのーさま(二)	六	第十八課	くさばはんさん	五十四
第四課	じんむてんのーさま(三)	八	第十九課	くまさははんさん	五十六
第五課	二のみや先生(一)	十	第二十課	小川たいさん	五十八
第六課	二のみや先生(二)	十二	第二十一課	もりらんまる	六十
第七課	二のみや先生(三)	十四	第二十二課	からすのりまん	六十二
第八課	二のみや先生(四)	十六	第二十三課	しほばら多助(一)	六十四
第九課	いとしめ	十八	第二十四課	しほばら多助(二)	六十六
第十課	いとのおたへ	二十	第二十五課	しほばら多助(三)	六十八
第十一課	おたけのぎょーぎ	二十二	第二十六課	くはふれたる	七十
第十二課	きるとおに(一)	二十四	第二十七課	おたけおかぬき	七十二
第十三課	きるとおに(二)	二十六	第二十八課	まつしまかんの水兵	五十四
第十四課	きるとおに(三)	二十八			
第十五課	みちをことわりをいふ	三十			

緒言

一本書ハ明治三十三年八月十八日、公布、文部省令及同年同月二十一日、制定、小學校令施行規則ニ依準シ、尋常小學校修身科ノ教科用書ニ充テシガ爲ニ編纂セリ。

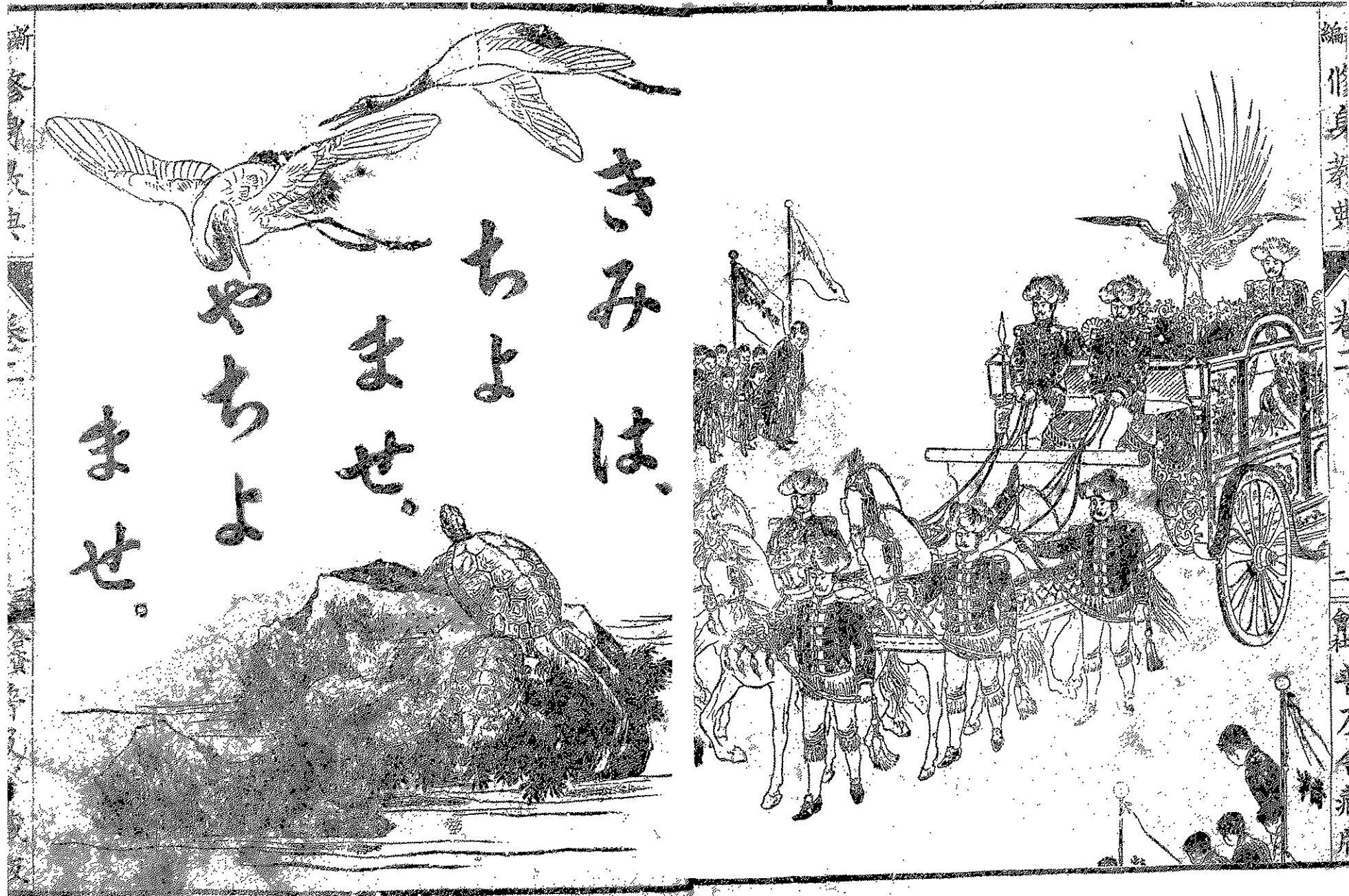
一本書ハ教育勅語、忠孝ノ大義ニ則リ、書中ノ嘉言善行悉ク其ノ大綱ニ歸セシメ、合セテ、現社會ニ適切ナル道德則チ立憲的國民ノ知得スベキ公德ヲ兒童ニ體認セシメ、シテ期セリ。

一本書ハ、徒ニ多クノ人ノ事例ヲ示シテ、兒童ヲ困迷セシムルコトヲ避ケ、性格ノ完美ニシテ、國民ノ模範タルベキ人物ヲ舉ゲ、興味アル具體的事例ニヨリテ、道德的感情及道德的意志ヲ修養セシムルヲ期セリ。

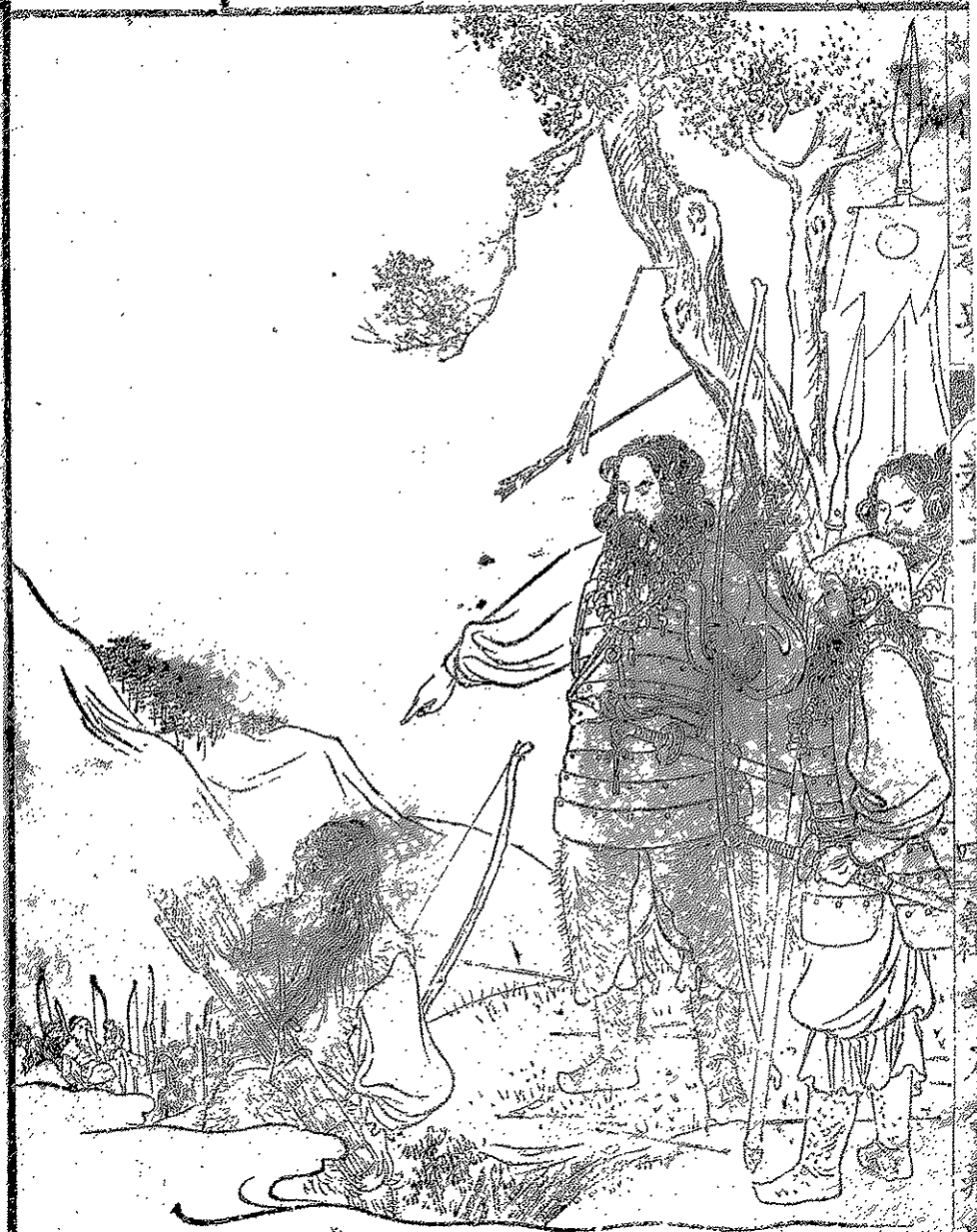
一本書ハ、兒童心理發達ノ序ニ從ヒ、童話及兒童日常生活上ノ事項ヨリ、始メ、卷ノ進ムニ從ヒテ、國家及社會ニ對スル事項ヲ増ヤセリ。

一本書ノ文章ハ、其ノ學年、讀本ノ進程ニ照ラシ、平易ナラシメ、コトヲ期シ、兒童が其ノ讀書力ヲ應用シテ、本書ヲ讀ムニ便シクシテ、圖レリ。

第一課



第 二 課



じんむてんのーさまが、
わるものどもをせいばつ
せられました

第三課



金いろのとびが、ゆみ
にとまりました。

第 四 課



じんむてんのーさまは
はじめの天のーさまで
あります。

第五課



編者 鳥居清長 卷二

十一 會社 寺 乃 合 齋 片

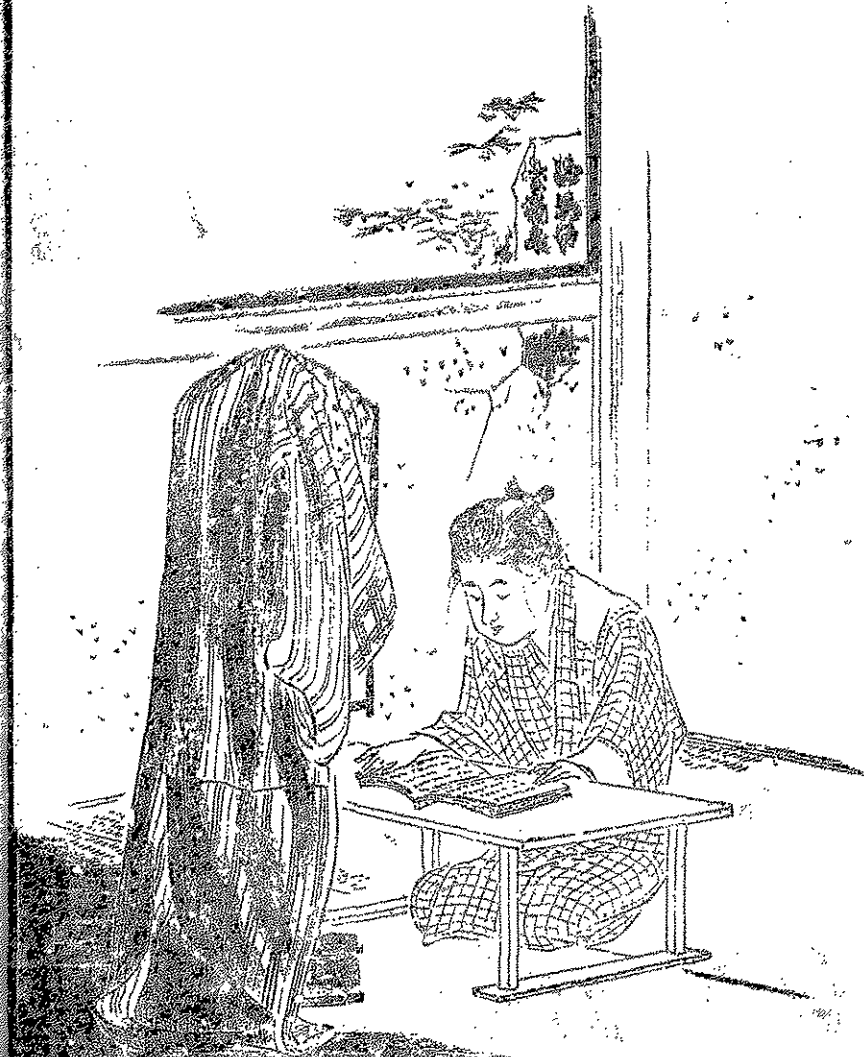
第六課

くは、
らくの
たね。



第七課

にのみやせんせい
はいばん、よなづを
しまひ、人のねた
あとで、づんきよ
いたされました



第八課



にのみや先生は、
大そし、なんぎしん、
おちぶれたいへを、
おこされました。

第九課

もーりもとなり公が
子どもらにむかひて
きょーだいなかよく
するよーにさとして
をられます。



第十課



しゅにまじはれば
あかくなる。

第十課



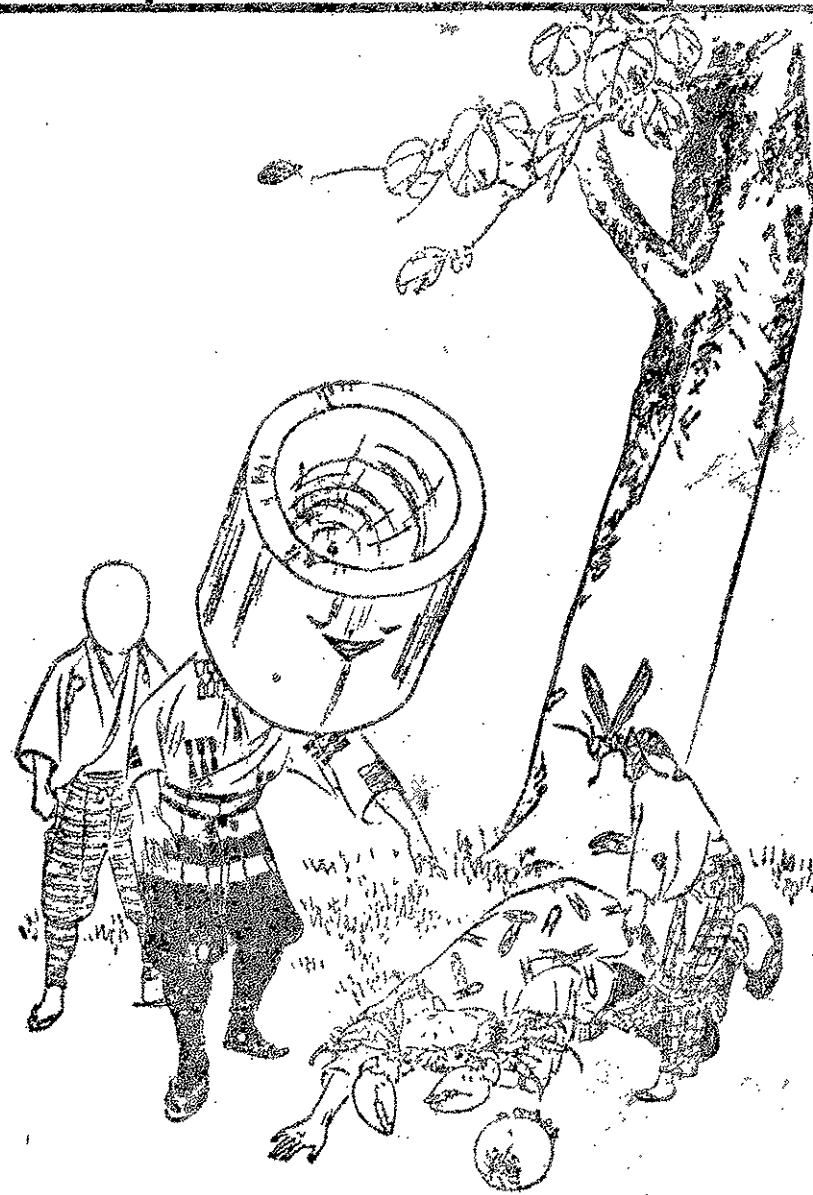
おたけがきょーち
よく、おきやくに、
ちやを、あげて
をります。

第二十課

かにがせいをだ
して、かきの木を
ただくをります。

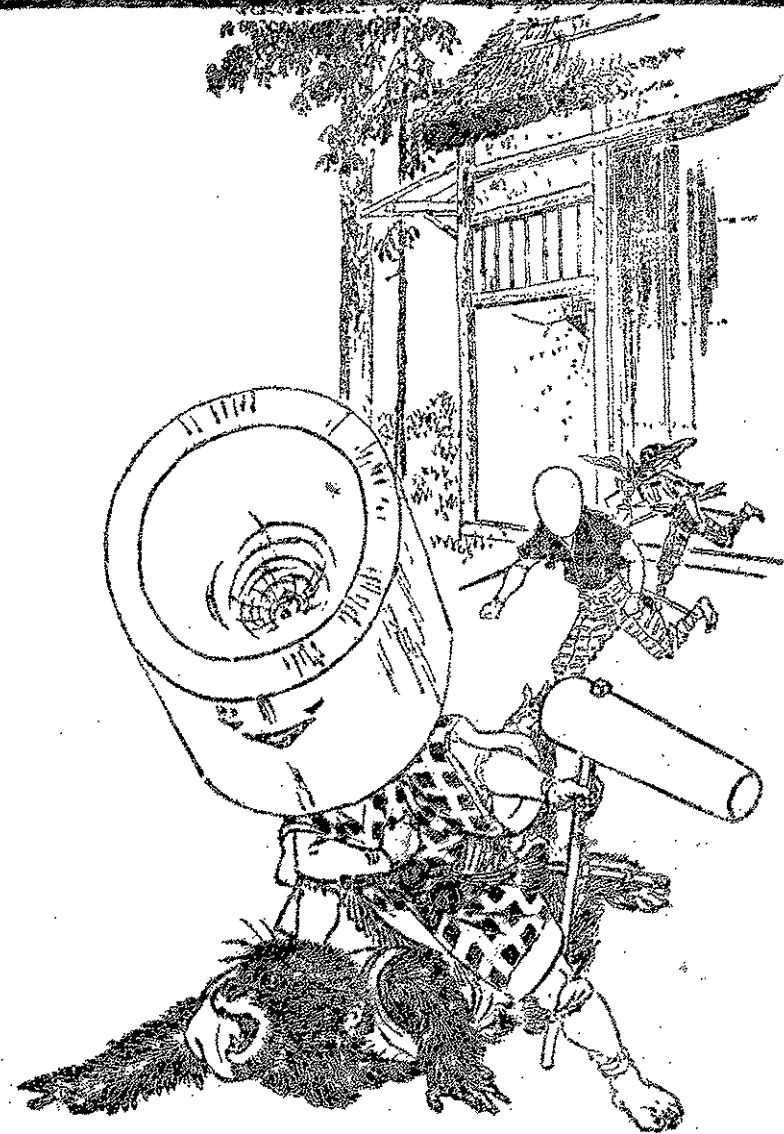


第三十課



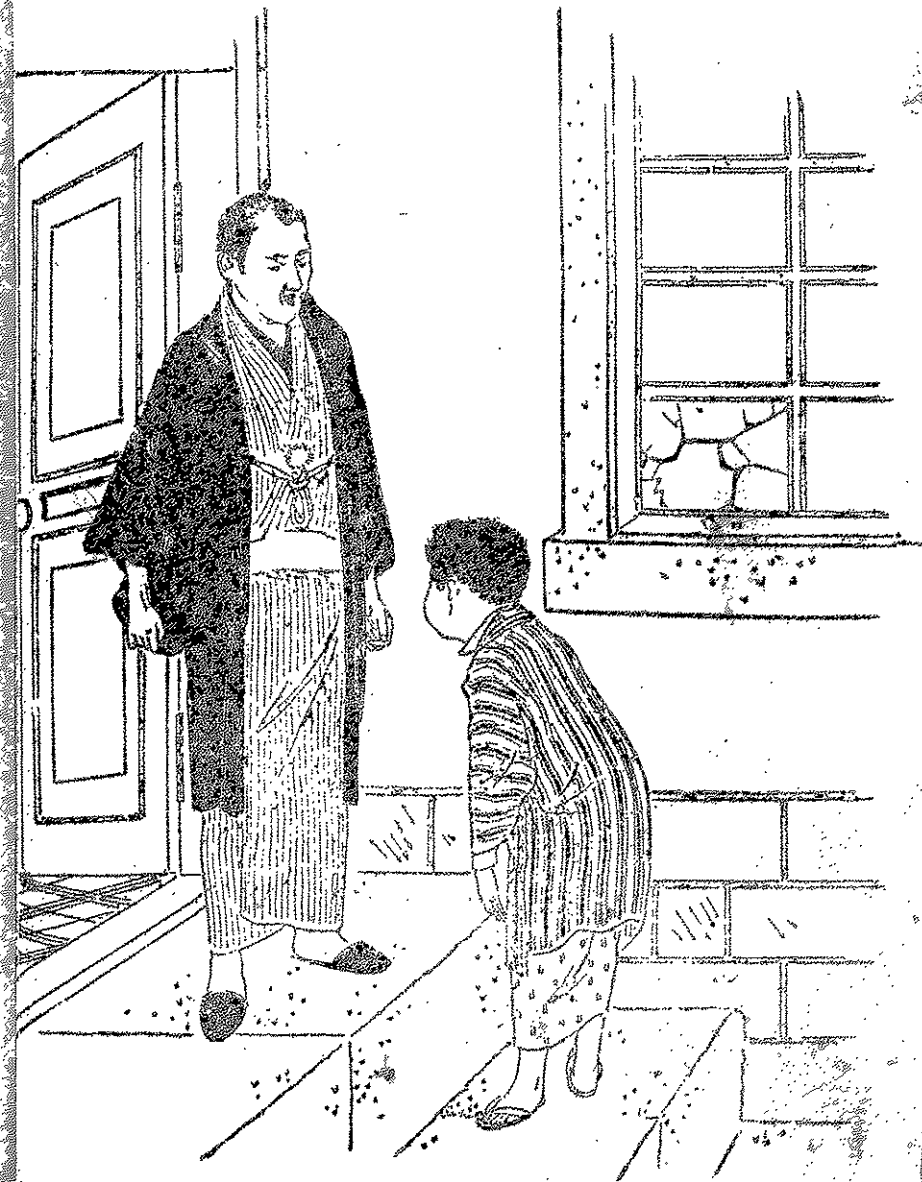
ともだちがかに
を、なぐさめて、
をります。

第四十課



かにのともだち
が、いちのわるい
さるを、こらし
て
をります。

第五十課



みちをがあやまちへ
まどのからすを
こはしました。
今、そのことわりを
いふようになります。

第六十課



がまふうぢさとが主人の
おはなしを、つぎのま
きいてをります。
ほかのものはねむりも
うぢさとは、きよーきを
よくしてをります。

第七十課

おたけは、めくらの
手をひき、しんせつ
に、みちを、をしつて
をります。



第十八課



くまざはばんざん
先生が中江先生を
したうんでしりを
ねがうてをられます。

第十課



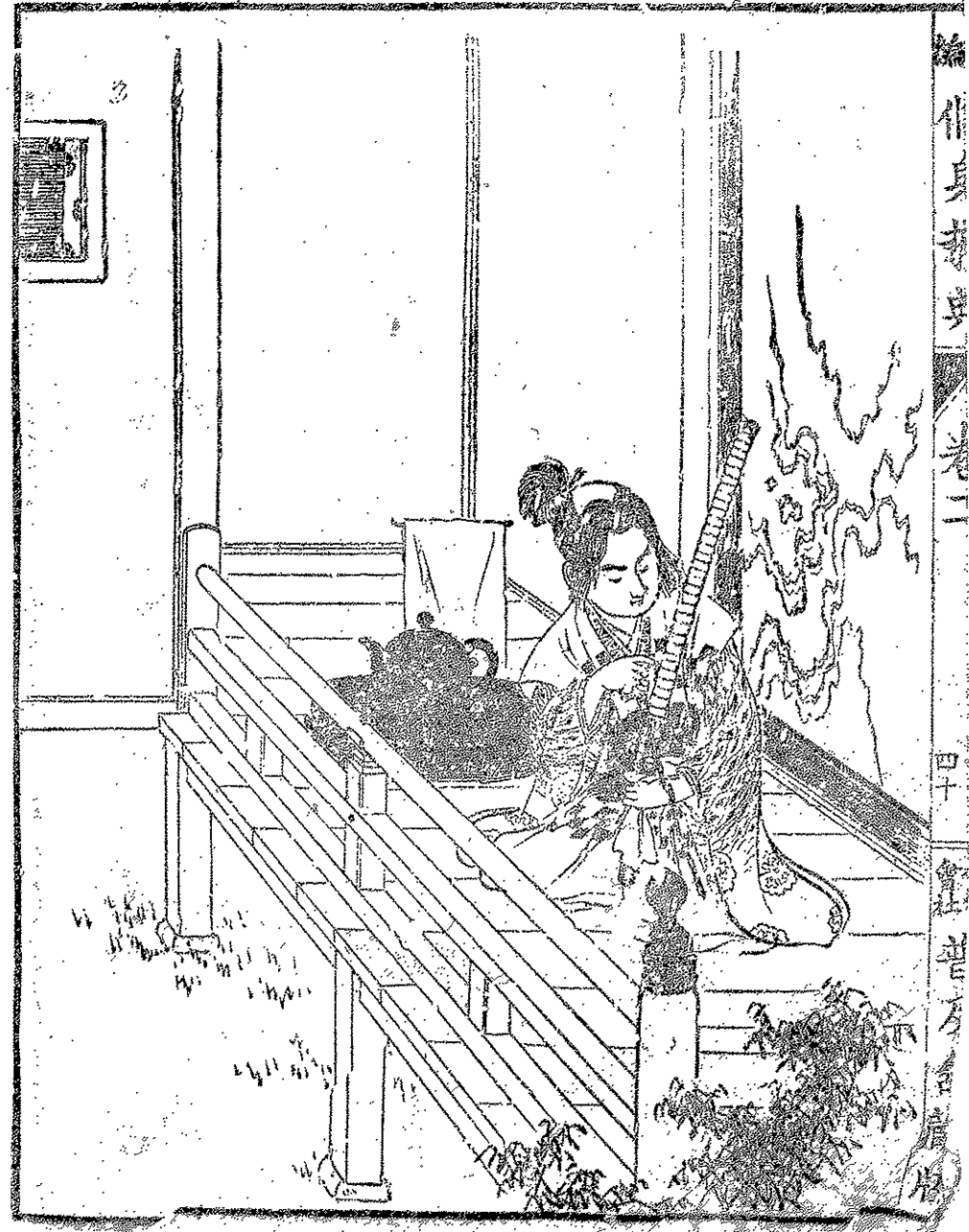
ばんざん先生はからだ
をつよくするために
まいばんけんじゆつ
のけいこをいたされ
ました。

第十二課



小川たいざんが、大
ゆきを、かまはずに、
先生のところへ、
けいこにまわります。

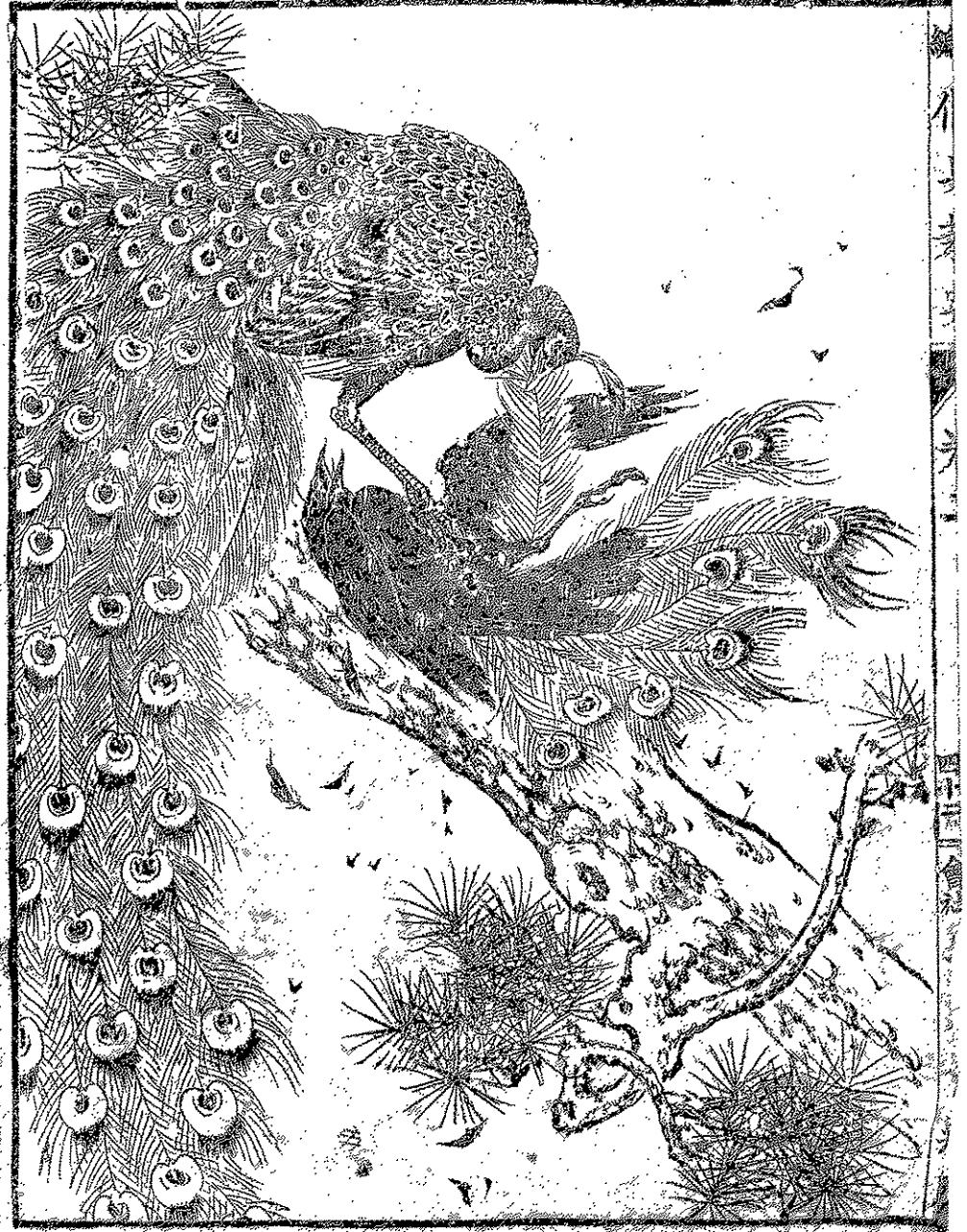
第二十一課



もりらんまるはしよーちき
のおかげで、のぶなが公
から、かたなを、もらひ
ました。

しよーちきは、
一しよーのたから。

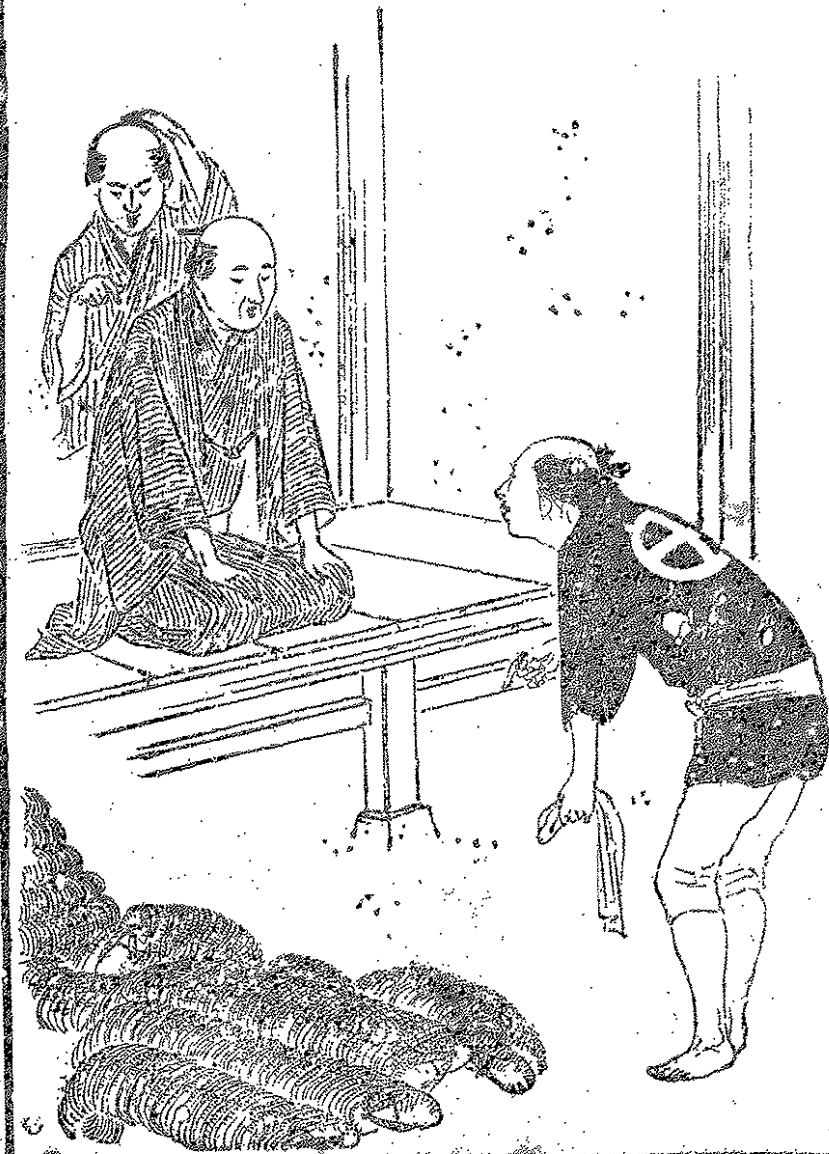
第二十二課



くじゃくのはねを
つけたからすが、その
はねをぬかれました。

第二十三課

しほばら多助は、すみやに、
ほーこーして、ゐましたとき、
きをつけて、あつめておき
ました。ふるぞーりを、主人
のいりよーのとき、に、たく
さんだしてあげました。



第二十四課

修身教科書 卷二

四十六 會社 普及 金澤市



多助は、十年あまり、
 ほうこくしてをる
 うちに、あつめた
 すみくづをもらうて
 みせをひらきました。

新編 修身教科書 卷二 四十六 會社 普及 金澤市

第二十五課

多助はしよーぢきに
して、せいだしたゆゑ、
そのみせが、大々ー
はんじょーして、名だかい
商人ショーマンになりました。

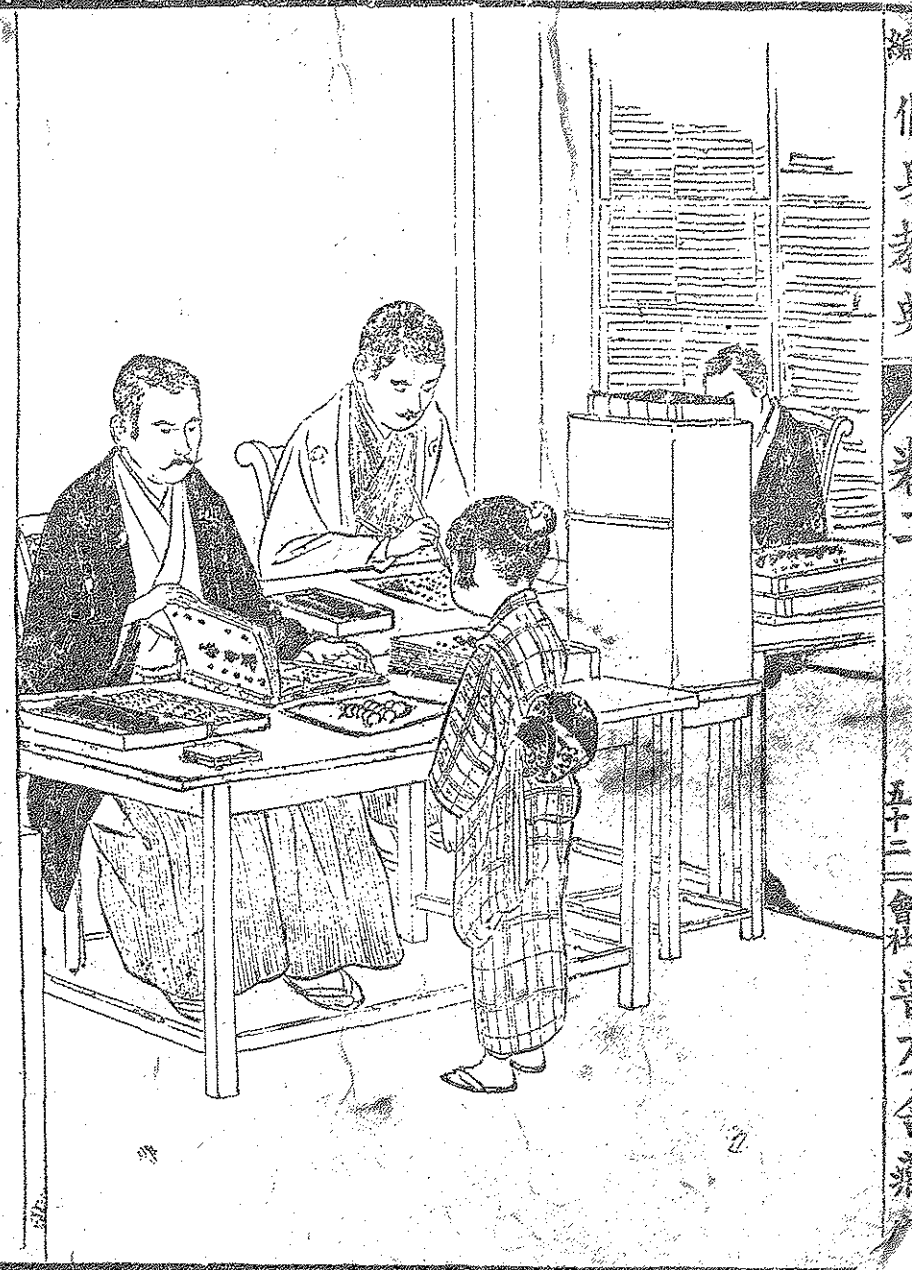


第二十六課



みちしるづのくひがたふ
れてをりました。
友二は、たび人が、さぞ
こまるであらうと思^{オモ}うて、
友だちと一しよにそれ
をたてゝをります。

第二十七課



にっぽんとしなといくさ
がありましたとき
おたけは、おつかひを
して、父母にもらつて
おいたおかねを、おかみ
づさしました。

第二十八課



松島^{シマ}かんの水兵^{スイヘイ}がたま
にうたれてくるしみ
ながら、「てきのふねは、
まだしづみませぬか」と
しくわんにたづねました。

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 8 3 9 7 8 6 a

福岡教育大学蔵書